



存在
価値

使命

目指す姿

行動指針

旭有機材グループ行動規範

Philosophy

企業理念

存在価値

信頼の品質と真摯な対応による安心の提供

使命

ものづくりのプロセスを、お役立ちで支えます

目指す姿

「はじめて」に挑み「違い」をつくる

行動指針

あたらしいことに関心を持ちトライする

高い専門性を磨き続ける

相手をよく知り、困りごとを見出す

目的意識を共有し、各々の役割を全うする

行動規範

旭有機材グループで働く私たちが

実践すべきこととその心がけ

Great Niche Explorer

1945年の創業以来、

私たちは、専門性の高い独自の技術をもってニッチな市場で事業展開し、

お客様の課題解決に真摯に向き合った結果、

ニッチトップ企業と呼ばれるようになりました。

私たちがいうニッチ市場とは、個々の市場規模は巨大ではないものの、

世界中に存在し、確実に必要とされる市場です。

そして、グレートな企業とは、

「業界で際立つ」「顧客視点に立った製品・サービスの独自性にこだわる」など

一目置かれる「なくてはならない」存在です。

「はじめて」に挑み「違い」をつくることで当社は進化して

グレートニッチトップを目指し、

私たちは、ニッチ市場を極める探究者

“Great Niche Explorer”であり続けます。

3つの事業領域

Three Business Areas



管材システム事業
Valve & Piping Systems



樹脂事業
Resin



水処理・資源開発事業
Water Treatment & Natural Resources Exploitation

01

樹脂製バルブを時代に先駆けて製造

旭有機材が時代に先駆けて樹脂製バルブを製造したのは1956年。金属製のバルブしかなかった当時は、薬品や海水を扱う現場では、腐食やさびなどにより短期間での交換を余儀なくされていました。そこで、樹脂材料を扱っていた当社が塩ビでバルブを開発したのがきっかけです。今では多数のメーカーから樹脂製バルブは販売されていますが、長い間蓄積された技術的なノウハウと、豊富な商品ラインナップは当社にしかない強みとなっています。



03

お客様ごとに最適なソリューションを開発・提供

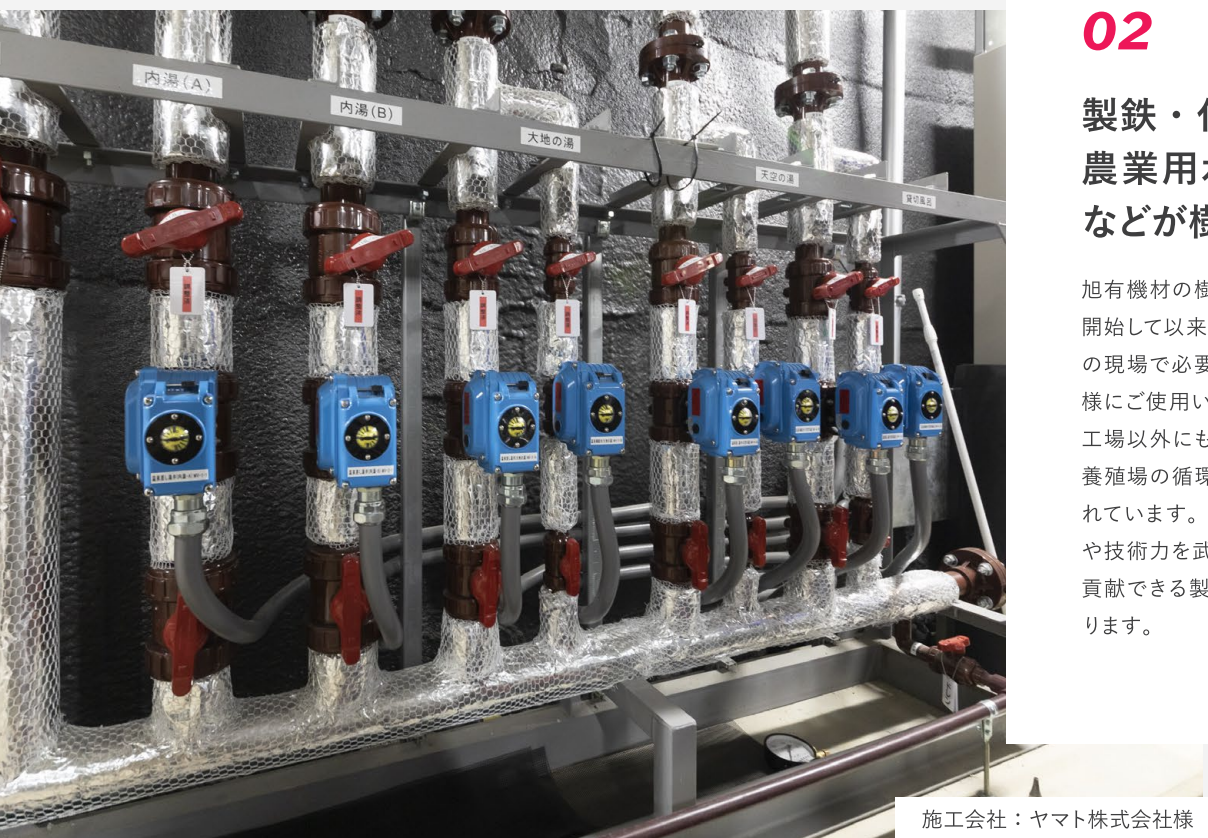
樹脂製バルブの長所は、軽くてさびずに長寿命である点です。そのため、信頼性が高く、真水以外の薬品や海水などでも強さを発揮します。樹脂製バルブのバイオニアとして製品力には自信がありますが、我々が解決したいのは、お客様それぞれが抱えているお困りごとです。樹脂配管材料を熟知している立場とお客様に寄り添う姿勢で、お客様ごとに最適なソリューションを開発・提供できる総合力こそが我々の最大の価値だと自負しています。



02

製鉄・化学・半導体工場や農業用水システム、水族館などが樹脂製バルブを採用

旭有機材の樹脂製バルブは、1956年に製造を開始して以来、製鉄や化学、半導体などの工場の現場で必要不可欠なものとして、多くのお客様にご使用いただいています。樹脂製バルブは工場以外にも、上下水道や農業用水、水族館、養殖場の循環ろ過システムの管理などに採用されています。今後も、これまで培ってきた経験や技術力を武器に、多方面で皆さまの暮らしに貢献できる製品やソリューションを提供してまいります。



施工会社：ヤマト株式会社様

04

樹脂製バルブの製造販売をはじめとしたワンストップソリューションで、お客様のお困りごとを解決

樹脂製バルブを中心に、パイプや継手など流量制御に関する製品の製造販売を行っています。また、60年以上にわたる樹脂製素材における経験とビッグデータを強みに、バルブやパイプの紫外線劣化度診断や超音波診断などのメンテナンスサービスや、配管の設計から施工までのトータルソリューションを提供するエンジニアリングサービスを展開しています。足元では、半導体の高度化へ寄与する、高純度フッ素樹脂製バルブの製造販売にも取り組んでいます。これらを通じて、お客様のお困りごとを解決いたします。



製品・ソリューション一覧

ASAHI AV 手動バルブ



ダイヤフラムバルブ 14 型

全開または全閉の操作またはバルブコントロール操作を人力で行うバルブ

ASAHI AV 自動バルブ



ボールバルブ21・21 a型エア式AR型

全開または全閉の操作またはバルブコントロール操作を自動で行うバルブ

ASAHI AV ビニルパイプ・継手



硬質ポリ塩化ビニル管

各種樹脂 (PVC・HI-PVC・超純 PVC・C-PVC・PP) 製のパイプ&継手とその関連製品

Dymatrix™ 高性能樹脂バルブ



AVPV3 ピンチ弁

半導体・FPD プロセスのニーズに対応する樹脂製バルブ

Falconics™ 高精度流量制御機器



AVFCS2 スラリー用流量コントローラー

半導体・FPD プロセスのニーズに対応する高精度流量制御機器

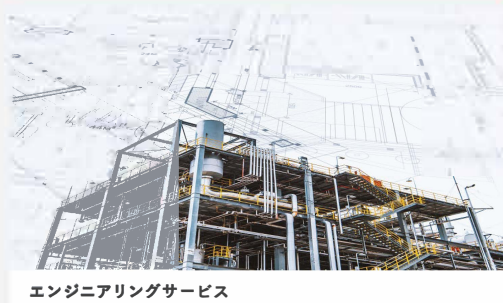
Mixworx 混合器



AVTDM 時間差式ミキサ

流れ方向の混合ムラを低減するミキサおよび高吸引型エジェクタ製品

エンジニアリングサービス



エンジニアリングサービス

タンク設計製作、配管設計施工、配管プレハブ品製作、各種樹脂加工品製作、構造解析、配管応力解析、SV 派遣、配管劣化診断などの各種サービス

製品・ソリューション一覧



お客様の声

鴨川シーワールド 様

生き物たちの命を守る 信頼性の高いバルブ

50年前のバルブを現役で使うことができる

鴨川シーワールドがオープンしたのは 1970 年 10 月。2020 年で開園 50 周年を迎えましたが、旭有機材とはずっと取引があります。特に「ASAHI AV バルブ」は絶対的に信頼し、使い続けている製品の 1 つ。主にダイヤフラムバルブ、ボールバルブ、バタフライバルブの 3 種類を使っています。旭有機材は 1950～60 年代に世界に先駆けて樹脂製のバルブを開発しました。それまで水道管のバルブは金属製だったため、海水などで腐食が早く、頻繁に交換する必要がありました。配管のメンテナンスには膨大なコスト・時間・労力がかかります。それが、海水や薬品に強い樹脂製バルブの登場により一気に解決できたのです。鴨川シーワールドがオープンに至ったのも、樹脂製バルブの存在が大きいと聞いています。

水族館では、魚類や海獣類が住むプールや水槽の水は、基本的に循環・ろ過して使っています。もし水質汚染が発生したり、水温や水素イオン濃度 (pH) が適正值から外れてしまうと、極端な話、生き物は死んでしまいます。私たちが旭有機材の製品をずっと使い続けているのも、ここで暮らす貴重な 800 種の生き物たちを守るためなのです。

当館で最大のシャチのプールの水量は約 4800 m³。このプールには、8 基の圧力式急速ろ過装置と循環ポンプなど複数の設備が接続されています。急速ろ過装置とポンプには 1 基あたり毎分 4 m³ の処理能力があるので、8 基で毎分 32 m³ の水を入れ替えることができます。それだけ大量の水 (海水) を入れ替えるからこそ、重要なのは私たちが意図したとおり、各配管のバルブがしっかり開いて、しっかり閉まること。それができていないと、直ちに水質悪化につながります。この働きを長期間にわたって確実に成し遂げる製品はなかなかありません。水質を清浄に保ち、お客様に色鮮やかな魚をきれいに提供してもらえるのも旭有機材のバルブがしっかり仕事をしている証なのです。

鴨川シーワールドには、オープン当初から 50 年使い続けている旭有機材のバルブも残っています。連結部の金属製ボルトとナットはさびついでいますが、バルブの本体そのものは故障することなく機能し続けているのです。循環・ろ過のシステムは、万に備えていくつか並列で動かしています。バルブの破損などで 1 つのシステムが稼働できなくても、ほかのシステムでカバーできるわけです。しかし、どうしても循環・ろ過のパフォーマンスは低下してしまう。壊れないということは、システムを止められない水族館には非常に重要なことなのです。

管材システム事業

Valve & Piping Systems

旭有機材は1956年に工業用樹脂製バルブを世界で初めて製造し、以来、製鉄・化学工場、水族館、半導体工場などに必要不可欠な製品として世界中でお使いいただき、技術開発とソリューションとで業界をリードしてまいりました。60年以上にわたり培われた安全・安心のシール技術や、信頼の流路設計技術、革新の樹脂合成技術をベースに経験豊富な営業と知識豊富な技術サポート、メンテナンスサービスでお客様のお困りごとの解決にあたります。

化学工場

強い酸やアルカリを扱う化学工場向けに、厳しい条件下でもお使いいただける耐食仕様を用意しています。

製鉄工場

酸で鉄を洗うラインなどでは、薬液の流路だけでなく、外部表面を含めた高い耐食性と動作信頼性が求められます。

非鉄精錬工場

地下資源の金属精錬工程において、強酸・強アルカリの薬液に対する高い耐食性が求められます。

上下水道

殺菌処理に使う薬液ラインにおいて、高精度、高信頼性、高耐久性が求められます。

半導体工場

半導体・液晶パネル製造工程では、薬液に対する高い耐食性と精密な流量制御技術が求められます。

農業

樹脂の高い耐久性、耐食性から、灌漑用のパイプや仕切弁、空気抜き弁、田畑への自動給水栓として利用されています。

水族館

魚や水生生物が嫌う金属イオンを漏出せず、海水で腐食しない樹脂製バルブとパイプ・継手は、水族館にとってなくてはならないアイテムです。

養殖場

海水に対する耐食性、作動の長期安定性から、魚やカキなどの養殖設備に用いられています。

管材システム事業が誇る特長

プラスチックバルブなら旭有機材



01

自動車や住宅・建築、液晶・半導体などの分野に樹脂製品を提供

耐熱性や難燃性、摩耗特性などに優れるフェノール樹脂の重合・合成技術をコアテクノロジーとして、自動車や住宅・建築、液晶・半導体などの分野で必要となる樹脂製品を製造、販売しています。特に、自動車産業のディスクブレーキなどを製作する鑄造プロセスにおいては、必要不可欠となる鑄物用樹脂とレジンコートサンドの両方を製造する強みを活かし、国内最大メーカーとして多様な要望に細やかに対応いたします。



03

樹脂の可能性を追求し お客様のご要望にお応えする

旭有機材の樹脂製品は、これまでもフェノール樹脂の長所を活かしつつ、お客様の課題に応じて独自の特徴を加えることで産業の先端分野に利用されてきました。旭有機材は、鑄造用、工業用、電子材料、発泡材料、成形材料として樹脂製品を展開してきましたが、樹脂にはまだまださまざまなところで利用できる可能性が秘められています。今後もフェノール樹脂の可能性を追求する中で数々の製品を生み出し、ものづくり現場でお客様のご要望にお応えしていきます。



02

身近な暮らし・産業を陰で支える旭有機材の樹脂事業

成形材料の製造販売からスタートした旭有機材の樹脂事業。目立たない存在ですが、皆さまにとって身近なものに我々の樹脂が利用されています。自動車ではブレーキパッドやタイヤの素材として、住宅では難燃性を向上させた断熱材用途のポリウレタンフォームとして、さらに半導体や液晶パネルなどの製造過程で使用するフォトリソ（感光性樹脂）としてなど、幅広い分野で旭有機材の樹脂が活躍しています。



04

環境に配慮した時代のニーズに合った製品を開発

地球温暖化対策など、昨今は環境に対する企業の責任が求められる時代です。旭有機材では、発泡材料分野で2016年に新断熱システム「ゼロフロン®ER-X」の販売を開始しました。ゼロフロン®ER-Xは、高い断熱効果を有しながら、地球温暖化係数を低く抑えることに成功した画期的な発泡材で、グリーン購入法適合製品でもあります。高い技術力をベースにお客様のご要望はもとより、時代や社会のニーズにも即した製品の開発を通して企業の社会的責任を果たしてまいります。



製品・ソリューション一覧

casting resin products



casting resin products

casting sand products



casting sand products

residential construction



建築物の断熱材として使用される材料の製造にとどまらず、現場施工、施工機械の設計開発までトータルソリューションを提供

civil engineering



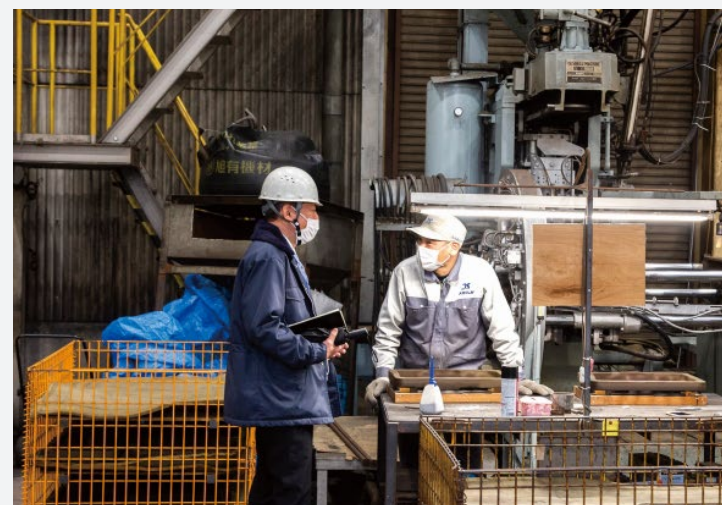
トンネル建設や補修工事に使用される材料で、地山を補強、安定させる機能を持たせた製品群

electronic materials



半導体、液晶をつくる時に使用されるフォトレジストをつくるための材料で、回路パターンの微細化要求に応えるため耐熱性や低メタル性などの機能を持たせた製品群

製品・ソリューション一覧



customer voice

株式会社大勢シェル様

研究を続けて casting industry development

製品とサービスの両面の支援で品質が向上
 旭有機材とともにお客様の信用を積み上げた

大勢シェルは、本格的に中子製造に取り組むため、1977年に島根工場を設立しました。当時は、 casting sand products「レジコーテッドサンド」(RCS)に関する知識はほとんどありませんでしたが、試行錯誤しながらより高品質の中子を目指すことで、取引先の casting companyを増やしていきました。同時に casting companyの要望も多様化し、難易度が高い依頼もいただくようになります。弊社としてはできる限りお客様のご要望に応えたいと考えていました。

島根工場設立当初は、地元の会社から RCS を仕入れていましたが、RCS に問題があったときでも、その会社で扱っている製品以外を使うことができず、壁に当たることも。そんなときに出会ったのが旭有機材です。問題が発生して旭有機材に相談すると、そのために改良した RCS を提案され、解決につながりました。難しい要望が増えるにつれて、相談する機会も増え、取引量も増えていきました。

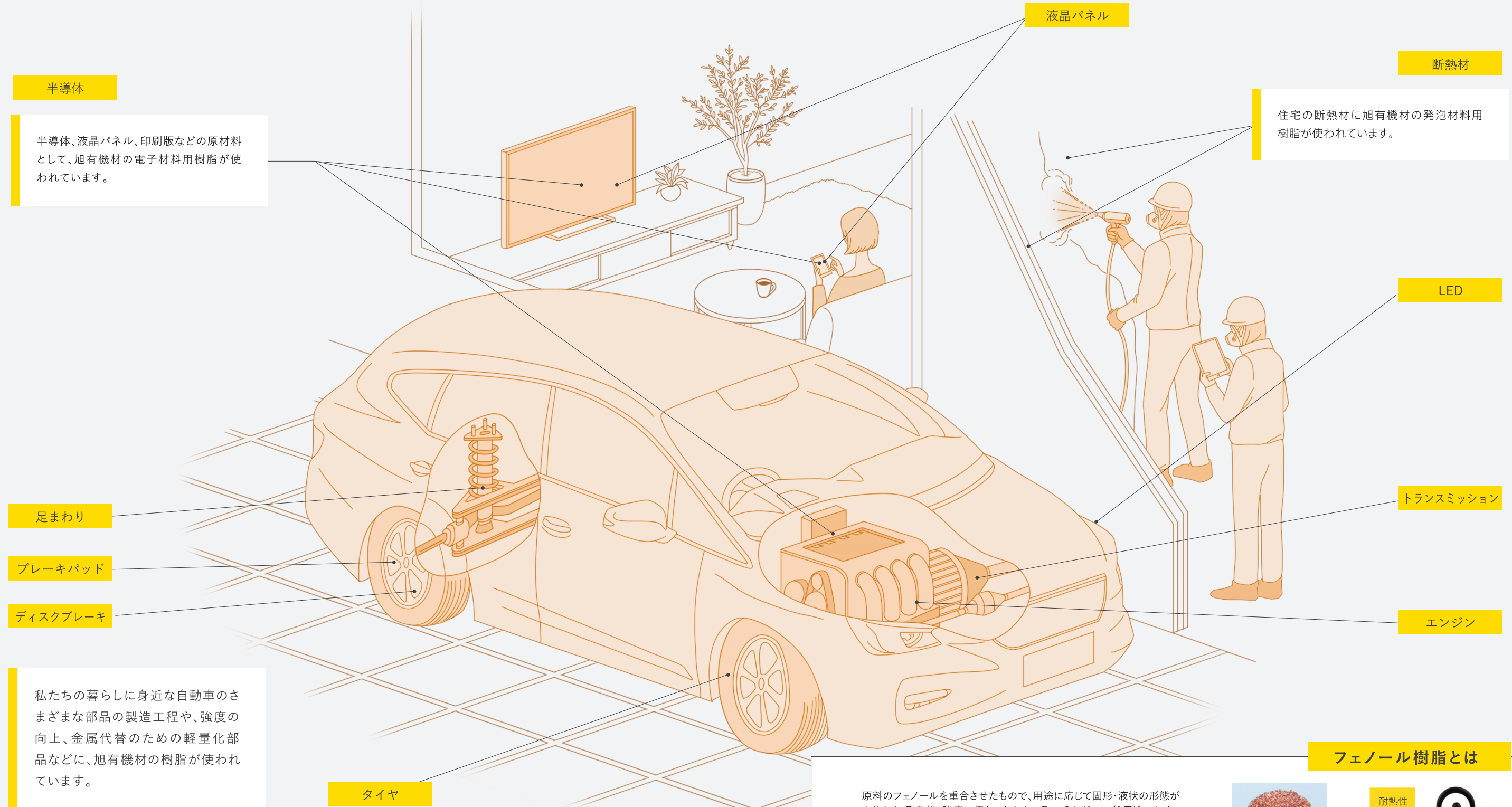
現在、弊社が使用する RCS の90%以上が、旭有機材製です。旭有機材の RCS は、砂をコーティングする樹脂の違いで、多彩な銘柄があります。銘柄ごとに優れた特性があり、問題が発生するとそれらの配合比率を調整することで、迅速に解決できます。これは旭有機材が国内で唯一、樹脂開発から手掛ける RCS メーカーだからこそ実現できるのでしょう。

また、旭有機材の担当者は皆さんとても研究熱心で、頻繁に弊社を訪れ一緒に問題の解決に取り組んでくれることも、大変心強いです。中子の製造を含めた casting industryでは、材料や製法だけでなく、気温や湿度などさまざまな要因が品質に影響します。そのため、弊社だけが研究し、技術を磨いても、高品質の中子を作ることはできません。旭有機材でも、RCS メーカーという立場から casting researchを続けていることが、弊社の中子の品質向上につながっています。こうした旭有機材の製品とサービスの両面の支援と、弊社の技術が結び付いてお客様の多岐にわたる要望に応えることができるのです。

島根工場の設立時に5人だった従業員数は、現在140人になりました。ここまで成長できたのは、旭有機材と二人三脚でお客様の要望に応え、長い年月をかけて信用を積み上げてきたから。 casting industryにはまだわからないことがたくさんあり、高品質の中子を作るためには、世界中で事業を展開している旭有機材と、今まで以上に情報の交換や共有が重要になります。国内外で起こるさまざまな casting industryの問題について、積極的に議論し、お互いに研究を続けていくことが、弊社はもちろん casting industryの発展に貢献するはず。今後も、 casting industryのさまざまな問題の解決とともに取り組んでいきたいと考えています。

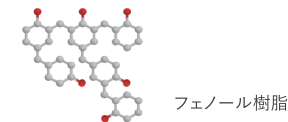
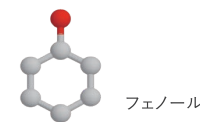
樹脂事業 Resin

成形材料からスタートした樹脂事業は、独自に確立した高い評価技術をベースに、フェノール樹脂の重合・合成技術をコアテクノロジーとして、耐火物・タイヤなどの一般工業分野、現在の中核を担う鋳造分野、最先端の電子材料や現場発泡断熱材へと展開し、お客様のさまざまなご要望にお応えしています。特に鋳造分野では、自動車産業において必要不可欠な鋳物用樹脂とレジンコートッドサンドの両方を製造する国内最大のメーカーであり、多様な鋳物特性により細かに対応しています。



フェノール樹脂とは

原料のフェノールを重合させたもので、用途に応じて固形・液状の形態があります。耐熱性・強度に優れ、やかんの取っ手などの一般用途のほか、元来のフェノール樹脂特性に新たな特性を付与してさまざまな産業の先端分野に利用されています。



01

水処理と資源開発の総合的ソリューションを提供

旭有機材グループの一員として水処理・水資源開発事業の中心を担うドリコ株式会社は、70年以上にわたり高度な掘削技術や地下探査技術、膨大なデータを培ってきました。私たちは、これらの強みを活かして商業ビルや施設内の排水を循環させる中水再利用や上下水道施設などを手掛ける水処理、さく井・地熱や温泉などの地下資源開発、水処理の過程に必要な環境薬剤開発に加えて、そのメンテナンスまで、多彩な事業に取り組んでいます。“価値ある水づくり”を追求し、水をととして社会に貢献します。



03

経済性と環境配慮を両立させたご提案が可能

商業ビルなど出る排水を再利用する中水道システムは、水資源の有効活用はもちろん水道代の削減にもつながります。また、工場では、排水を再利用したり、公共用水域に流したりできるように浄化。産業用水として用途に最適な水質を提供できる施設も、ご用意いたします。こうした水処理に加えて、独自開発した微生物配合の水処理改善薬剤や消臭剤などを取り扱う環境薬剤、高度な掘削技術を駆使する地下資源開発の3事業で、水や資源に関してさまざまな角度からお客様のニーズにお応えしつつ、経済性と環境配慮を両立させたご提案を行っています。



02

水の専門メーカーとして社会のさまざまな場面で活躍

水処理に関する高度なノウハウを持つドリコの施設は、羽田空港ターミナルビルや東京ミッドタウンの中水再利用、硝子や食品など各業種の工場の排水処理などにご利用いただいています。また、全国各地の公共上下水道施設でも、幅広い利用実績があります。一方、資源開発では、伊香保温泉（群馬県）、フェニックス・シーガイア・リゾート（宮崎県）をはじめ、全国300本を超える温泉を掘削。その本数と掘削総延長 350km以上は、共に日本一を誇ります。さらに、再生可能エネルギーとして期待される地熱発電に必要な調査井や生産井、還元井の掘削といった多様なさく井技術も、高くご評価いただいています。



04

常に安心・安全に各種設備を使える体制を整備

私たちの仕事は、お客様に設備を提供するだけでは終わりません。設計・施工を手掛けた中水プラントや浄化槽、産業排水施設、温泉施設といった各種設備の維持管理サービスや緊急対応サービス体制を整え、お客様に常に安心・安全に使い続けていただけるように努めています。水をはじめとする自然から得た資源を、浄化してまた自然に返す。そのためにドリコは、最先端の技術と豊富な経験を活かして、お客様とともに環境に優しい循環型社会の実現を目指してまいります。



製品・ソリューション一覧

水熱資源の開発・供給



地質調査コンサルタント

地質・土質調査などの分野において、総合的なコンサルティングを展開



さく井・地熱開発

時代を先取りしたさく井技術で、お客様のあらゆるニーズに対応



温泉開発

温泉の掘削から利活用システムの設計施工、温泉廃水処理、維持管理まで、温泉開発をトータルプロデュース



産業排水処理施設

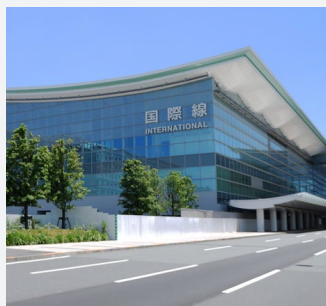
排水の再利用まで視野に入れたさまざまな水処理技術で、お客様の要望に対応

水道施設の設計・施工・排水の再利用



飲料水・産業用水

原水の水質やお客様の要望に応じた最適なシステムを提案



中水・再生水

高い技術力を駆使した各種中水再利用システムで、水資源の有効活用に貢献



生活排水

長年の実績により培われた施工技術をもとに、快適な生活づくりに貢献



水処理・温泉施設など

長年培ってきた技術をもとに、水資源の安定した供給をサポート

維持管理サービス

資源開発事業



地熱発電開発や温泉開発など、さく井の分野で、国内有数の事業を展開しています。

水処理事業



ビルの排水を循環させる中水再利用施設を中心に、各種上下水道施設の設計・施工を行っています。

環境薬剤事業



水や中水処理の過程で必要な消臭剤や油脂分解処理剤などの薬剤を開発しています。

メンテナンス事業



設計・施工を手掛けた各種設備の維持管理サービスを社内に備えることで、お客様の設備を万全にサポートします。

製品・ソリューション一覧



お客様の声

日本国土開発株式会社 様

ドリコの提案力は新事業の発展に欠かせない

全国最多の掘削実績を誇る温泉の専門家集団 水処理の幅広い要望にも柔軟かつ迅速に対応

日本国土開発は、昭和 50 年代から宮城県仙台市の泉ヶ岳中腹に約 40 ヘクタール (ha) の遊休地を保有していました。新たな観光資源の創出を大きなテーマとして、その中の 9.58ha を活用したのが、「泉ピークベース」です。当初から温泉があるキャンプ場をコンセプトに掲げていたため、まず温泉源調査を実施することになりました。

温泉が出なければコンセプトから外れるため、調査には万全を期して臨みたいと考えていたところ、温泉開発に関して豊富な実績があるドリコを知ったのです。ドリコに依頼した決め手は、社内に地質の専門家がいますなど温泉のプロフェッショナルという印象に加えて、特にドリコが得意とする温泉掘削数は全国最多という点でした。

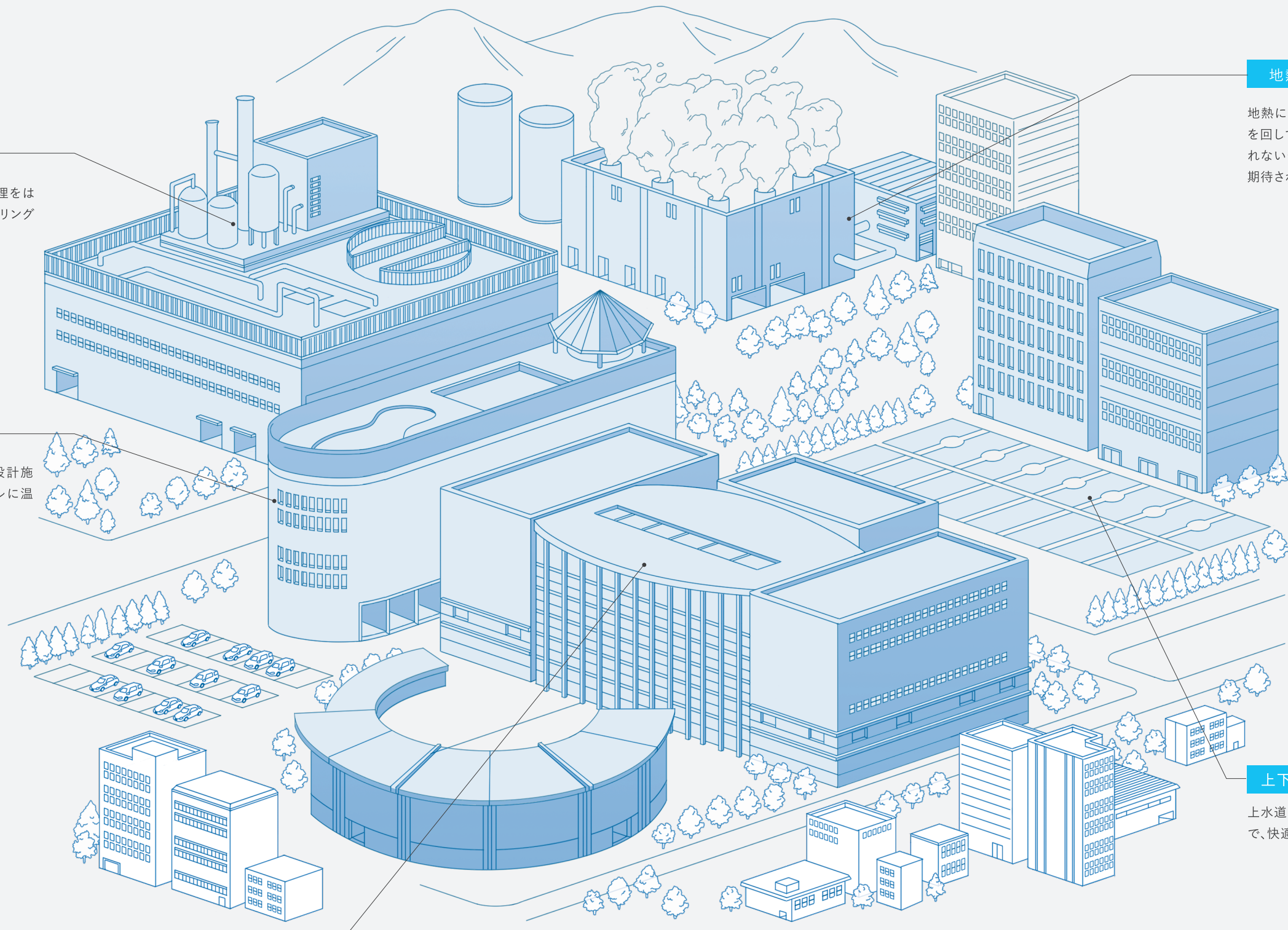
調査の結果、温泉源があるとわかり、掘削と同時に湯湯設備や温泉配管の設置もドリコに依頼しました。中でも湯湯では、できるだけ高い温度で温泉をくみ上げて、CO₂ 排出量やボイラー燃料費を抑えたいと考えていました。ドリコに相談したところ、湯湯設備のポンプのシステムに関して複数の提案があり、その説明も丁寧で十分に納得できるものでした。保温性に優れた湯湯設備を設置し、ご利用者様にも満足いただける温浴施設になったと自負しています。

泉ピークベースでは、温泉設備以外でも、浄化槽や水井戸掘削、水井戸水を飲み水にするための井水処理設備など、水処理に関するさまざまな設備をドリコに依頼しています。水井戸に関しては相見積もりを取りましたが、ドリコの工期が最も短く、費用面でも納得できたことから、温泉開発に追加して発注することになりました。建設期間中は、弊社の多岐にわたる要望をしっかりとみ取ってくれるだけでなく、課題が見つかったときは協議を重ねて、柔軟に対応してくれました。オープン後も、頻繁に設備の点検を行い、不具合があれば迅速に解決するなどアフターサービスにも満足しています。

実は、温泉掘削を依頼した時点では、ドリコが水井戸や排水処理の設備も手掛けていることを知りませんでした。温泉開発を進める中で、豊富なノウハウと高い技術力に基づく提案を何度も受けたことから、温泉以外でも力になってくれるのではないかと感じたのです。さらに、これらの設備を自社で設計、施工しているため、対応力やスピード感もあり、結果的に安心して任せることができました。

弊社では、泉ピークベースをより充実した施設に育て、いずれは第 2、第 3 の施設へと拡大することで、キャンプ&ワーケーション施設の開発事業を大きな柱にしたいと考えています。泉ピークベースの発展には、ドリコの水処理に関する優れた提案力が欠かせません。次の展開の際にも、ご協力いただけるとありがたいですね。

2013年9月に旭有機材グループの一員となったドリコ株式会社を主体とする水処理・資源開発事業は、「価値ある水づくり」を追求し、水をととして社会に貢献してまいりました。地下資源開発のパイオニアとして日本有数の温泉開発を手掛けた実績をはじめ、クリーンエネルギーとして脚光を浴びる地熱開発などの資源開発にも積極的に取り組みながら、環境に優しい循環型社会の形成を目指しています。



産業排水処理施設

工場などでの産業用水や排水の処理をはじめ、水に関するトータルエンジニアリングを提供しています。

温泉施設

温泉源調査から掘削、給湯設備の設計施工、排水処理、維持管理までトータルに温泉開発を手掛けています。

中水再利用施設

ビルや商業施設で、一度使った水を再利用する中水道システムで、ドリコはトップシェアを有しています。

地熱発電所

地熱によって熱せられた水蒸気でタービンを回して発電する地熱発電。天候に左右されない安定した再生可能エネルギーとして期待されています。

上下水道施設

上水道施設や下水道処理施設の設計・施工で、快適な暮らしづくりに貢献しています。

水処理・資源開発事業が誇る特長

ドリコ株式会社 <https://www.drlico.co.jp/>



管 材

樹 脂

1945

1950

フェノール樹脂成形材料の量産開始

1954

シェルモールドレジ
ン製造・販売開始

1963

レジンコーテッドサンド開発

1980

電子部品用成形材料開発

1956

樹脂製バルブ
「ASAHI AV」バルブ誕生

世界初オールプラスチック成
型品ストップバルブ製造開始

1959

世界初流線形プラスチック製
ダイヤフラムバルブ開発

1965

プラスチック製では国内初
塩ビ製ボールバルブ製造開始

1967～1969

バタフライバルブ開発

1974

塩ビパイプの製造開始

1977

コンパクトボールバルブ開発

1980

Cゲートバルブ開発

1985

FRP製大口径
バタフライバルブ開発



1987

定流量弁開発

1993

農業用自動給水栓バルブ開発

1995

ボールバルブ 21 型開発

1997

ダイヤフラムバルブ 14 型開発

2000

Dymatrix™シリーズ製造開始

2003

PDCPD 製大口径
バタフライバルブ開発

2011

Falconics™開発

2018

ロータリーアクチュエータエア式 AR
型開発

2021

ロータリーアクチュエータ
電動式 Z 型開発

1988

電子用樹脂製造開始

1989

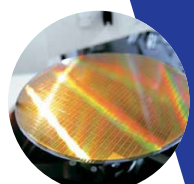
現場発泡用難燃 2 級
フェノールウレタン樹脂
システム供給開始

2009

現場発泡用ゼロフロン®
システム上市

2012

固結材用発泡材料上市



旭有機材の歴史については
ホームページでも
ご覧いただけます。



1945年	3月	資本金 200 万円をもって日窒化学工業株式会社 (現在の旭化成株式会社) の子会社として航空機用強化木の製造を目的とする日窒航材工業株式会社を設立
	11月	社名を旭ベニア工業株式会社と改め、フェノール樹脂成形材料、合成樹脂成型品、並びに合板の製造販売へ事業転換
1950年	11月	社名を旭有機材工業株式会社に変更
1952年	4月	延岡工場にて ASAHI AV バルブの製造・販売を開始
1954年	6月	延岡工場にてシェルモード用レジンの製造・販売を開始
1963年	7月	レジンゴートッドサンド製造のため、下関工場 (山口県下関市) を建設
1964年	5月	合成樹脂成型品、レジンゴートッドサンド製造のため利根工場 (茨城県古河市) を建設
	10月	レジンゴートッドサンド製造のため、常磐工場 (福島県いわき市) を建設
1968年	4月	シェルモード用レジン、レジンゴートッドサンド製造のため、愛知工場 (愛知県扶桑町) を建設
1974年	2月	株式を東京証券取引所市場第 1 部に上場
	3月	塩化ビニルパイプの製造のため、北方工場 (宮崎県北方町 (現・延岡市)) を建設し、旧北方プラスチック加工有限会社 (北方プラスチック株式会社) に製造を委託
1991年	10月	総合研究所 (宮崎県延岡市) を建設
	10月	レジンコーテッドサンド製造のため、広島工場 (広島県庄原市) を建設
1992年	1月	下関工場 (山口県下関市) を閉鎖
1996年	3月	レジンコーテッドサンド製造のため、栃木工場 (栃木県大田原市) を建設、これに伴い、同年、利根工場 (茨城県古河市) および常磐工場 (福島県いわき市) を閉鎖
1998年	11月	塩化ビニルパイプ製造設備を、栃木工場 (栃木県大田原市) に建設
1999年	11月	アサヒ / アメリカ, INC. の全株式を取得 (現・連結子会社)
2000年	2月	配管材料エンジニアリング部門強化のため、天下 (あもり) 工場 (宮崎県延岡市) を建設
2001年	6月	延岡本社と東京本社の 2 本社制とし、かつ管材システム事業部、樹脂事業部の 2 事業部制を採用
2004年	3月	樹脂事業部門の研究・開発のため総合研究所 (愛知県扶桑町) を建設
2005年	12月	旭有機材商貿 (上海) 有限公司を設立 (現・連結子会社)
2006年	12月	旭有機材樹脂 (南通) 有限公司を設立 (現・連結子会社)
2008年	10月	旭有機材閥門設備 (上海) 有限公司を設立 (現・連結子会社)
2011年	3月	北方工場 (宮崎県延岡市) を閉鎖し、北方プラスチック株式会社を解散
2012年	8月	愛知工場 鋳造用フェノール樹脂製造工場を更新建設
	11月	ASAHI MODI MATERIALS PRIVATE LIMITED Pvt., Ltd. を設立 (現・連結子会社)
2013年	5月	旭有機材樹脂 (南通) 有限公司が電子材料用フェノール樹脂工場を新設
	7月	旭有機材樹脂 (南通) 有限公司が鋳造用レジン工場を増設
	9月	ドリコ株式会社の全株式を取得 (現・連結子会社)
2014年	4月	水処理・資源開発事業統括本部を新設し、3 事業部制とする
	8月	ASAHI KOREA CO., LTD を設立 (現・連結子会社)
	10月	ASAHI AV Europe GmbH を設立 (現・連結子会社)
2016年	2月	ASAHI ASIA PACIFIC PTE. LTD. を設立 (現・連結子会社)
	4月	社名を旭有機材株式会社に変更
	12月	ASAHI YUKIZAI MEXICO S.A. de C.V. を設立 (現・連結子会社)
2017年	10月	大和興産株式会社の株式を追加取得 (現・連結子会社)
2018年	4月	旭エー・ブイ産業株式会社の株式を追加取得
	4月	子会社である旭有機材商事株式会社と旭エー・ブイ産業株式会社が合併し、社名をアビトップ株式会社に変更 (現・連結子会社)
2019年	7月	株式会社ランドウィックの全株式を取得 (現・連結子会社)
	11月	旭環美水処理 (蘇州) 有限公司が事業を開始 (現・連結子会社)
2021年	12月	東京証券取引所プライム市場を選択

管材システム事業部	
札幌営業所	〒060-0807 北海道札幌市北区北 7 条西 4 丁目 17 番地 1 KDX 札幌北口ビル 8 階 TEL : 011-746-7710 FAX : 011-746-7714
仙台営業所	〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町 12 番 30 号 日本生命仙台台勾当台西ビル 2 階 TEL : 022-213-3911 FAX : 022-213-3912
東京営業所	〒110-0005 東京都台東区上野 3 丁目 24 番 6 号 上野フロンティアタワー 21 階 TEL : 03-5826-8829 FAX : 03-3834-7592
名古屋営業所	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 1 丁目 4-16 KDX 名古屋日銀前ビル 4F TEL : 052-222-8533 FAX : 052-222-8233
大阪営業所	〒541-0048 大阪府大阪市中央区瓦町 4 丁目 5 番 9 号 井門瓦町ビル 7F TEL : 06-4707-1080 FAX : 06-4707-1088
福岡営業所	〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南 1-8-13 博多駅南 R ビル 8F TEL : 092-413-8700 FAX : 092-413-8722
AVグローバル推進部	〒110-0005 東京都台東区上野 3 丁目 24 番 6 号 上野フロンティアタワー 21 階 TEL : 03-5826-8831 FAX : 03-3834-7592

樹脂事業部	
素形材営業部 東日本営業グループ	〒324-0037 栃木県大田原市上石上字東山 1840 番地 TEL : 0287-29-1881 FAX : 0287-29-2828
素形材営業部 中日本営業グループ	〒480-0105 愛知県丹羽郡扶桑町大字南山名字新津 26 番地 4 TEL : 0587-92-9111 FAX : 0587-92-9110
素形材営業部 西日本営業グループ	〒727-0004 広島県庄原市新庄町字王子 5088 番 61 号 TEL : 0824-72-8011 FAX : 0824-72-8003
海外事業推進部 電子材料部	〒110-0005 東京都台東区上野 3 丁目 24 番 6 号 上野フロンティアタワー 21 階 TEL : 03-5826-8834 FAX : 03-3834-7592
発泡材料営業部 断熱材営業グループ・ 市場開発グループ	〒110-0005 東京都台東区上野 3 丁目 24 番 6 号 上野フロンティアタワー 21 階 TEL : 03-5826-8833 FAX : 03-3834-7592

本 社	
東京	〒110-0005 東京都台東区上野 3 丁目 24 番 6 号 上野フロンティアタワー 21 階 TEL : 03-5826-8820 FAX : 03-3834-7590
延岡	〒882-8688 宮崎県延岡市中の瀬町 2 丁目 5955 番地 TEL : 0982-35-0880 FAX : 0982-35-9350

工 場	
延岡製造所	〒882-8688 宮崎県延岡市中の瀬町 2 丁目 5955 番地 TEL : 0982-35-0880 FAX : 0982-35-9350
天下テクノセンター	〒882-0071 宮崎県延岡市天下町 1176 番地 1 TEL : 0982-23-5800 FAX : 0982-23-5810
愛知工場	〒480-0105 愛知県丹羽郡扶桑町大字南山名字新津 26 番地 4 TEL : 0587-93-1030 FAX : 0587-93-8850
栃木工場	〒324-0037 栃木県大田原市上石上字東山 1840 番地 (RCS) TEL : 0287-29-1881 FAX : 0287-29-1711 (パイプ) TEL : 0287-29-1879 FAX : 0287-29-1729
広島工場	〒727-0004 広島県庄原市新庄町王子 5088 番 61 TEL : 0824-72-8011 FAX : 0824-72-8003

海外拠点	
ドバイ事務所	ASAHI YUKIZAI CORPORATION Middle East Branch 6WB344 Dubai Airport Free Zone, Dubai, UAE P.O.Box No. 371674 TEL : +971-4-331-7753

水処理・資源開発事業	
ドリコ株式会社	〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-10 日本橋サンライズビルディング 3F TEL:03-6262-1421 FAX:03-6262-1431

国内グループ会社	
アビトップ株式会社	東京都台東区上野 6 丁目 16 番 20 号 松村ビル 4 階 TEL : 03-6284-2591

大和興産株式会社	岡山県岡山市中区平井 7 丁目 19 番 18 号 TEL : 086-277-5111
----------	---

株式会社ランドウィック	大阪府東大阪市水走 2 丁目 11 番 16 号 TEL : 072-966-1332
-------------	--

海外グループ会社	
ASAHI/AMERICA,INC	655 Andover street, Lawrence, MA 01843 USA TEL : +1-781-321-5409 FAX : +1-978-685-3010

旭有機材商貿 (上海) 有限公司	Asahi Organic Chemicals Trading(shanghai) Co., Ltd. 2007-2008, 2299 YAN AN ROAD WEST, SHANGHAI 200336, CHINA TEL : +86-21-6278-7862 FAX : +86-21-6278-7892
------------------	--

旭有機材閥門設備 (上海) 有限公司	ASAHI AV VALVE (SHANGHAI)CO.,LTD. No.18, Shanghai Malu Fengdeng Industry City, 615 Fengdeng Road, Malu Town, Jiading District, Shanghai 201818, CHINA TEL : +86-21-6139-2600 FAX : +86-21-6139-2606
--------------------	---

旭有機材樹脂 (南通) 有限公司	Asahi Organic Chemicals (Nantong) Co., Ltd. No.21 Tong Wang Road, Nantong ETDZ, Jiangsu, China 226017 TEL : +86-513-8359-2400 FAX : +86-513-8359-3400
------------------	---

ASAHI MODI MATERIALS PRIVATE LIMITED	Plot No.913, Jhagadia GIDC, Dist. Bharuch, Gujarat-393110 India TEL : +91-79-4008-1200/01/02
--------------------------------------	---

ASAHI KOREA CO.,LTD	#805-D Digitalempire office, 16, Deogyong-daero 1556beon-gil, Yeongtong-dong, Yeongtong-gu, Suwon-si, Gyeonggi-do, Korea TEL : +82-31-203-2050 FAX : +82-31-203-2880
---------------------	---

ASAHI AV Europe GmbH	Westendstrasse 16-22, D-60325 Frankfurt am Main, Germany TEL : +49-69-7137303-0
----------------------	--

ASAHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.	209 Woodlands Avenue 9 #05-57/58 Singapore 738959 TEL : +65-6755-8033 FAX : +65-6754-7033
------------------------------	--

ASAHI YUKIZAI MEXICO S.A. de C.V.	Calle Carretera Panamericana Sur KM 114 + 354, Interior 7 Colonia Parque Industrial FINSA en la ciudad de Aguascalientes, Ags. CP 20393 TEL : +52-449-129-3252
-----------------------------------	---

ASAHI AFRICA (PTY) LTD	ASAHI AFRICA (PTY) LTD (Trading as CELTECH PIPE SYSTEMS) Unit 34 Airborne Park, Taljaard Road, Bartlett, Boksburg, 1459 RSA TEL : +27-11-397-4353
------------------------	---